

はしか(麻疹)

<どんな症状>

発熱、せき、発疹、鼻汁、目やにを主症状とします。最初3~4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた39~40℃の高熱と共に発疹がでできます。高熱は3~4日で解熱し、次第に発疹も消えます。しばらく色素沈着が残ります。

<どんな病気>

はしかの子どもと接触するとだいたい10日後くらいから症状が現れます。感染力が強く、一生のうちに1度はかかる重い病気です。はしかに直接効く薬はないので、症状をやわらげる対症療法が中心です。予防接種を受けて予防しますが、1歳前にかかる子もいるので注意が必要です。上の子や保育所の子どもがかかってしまったような場合、感染を受けて2~3日以内にガンマグロブリンの注射をすれば、一時的に予防したり、かかっても軽く済ませたりすることができます。

<手当て>

麻疹ウイルスの飛沫感染によって起こる感染症です。1度かかると強い免疫ができます。母親が免疫を持っていれば、子どもも生後6か月くらいまではその免疫によって守られます。

<合併症>

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。現在、わが国でも年間約50人の子どもがはしかで命を落としています。

<予防接種>

はしかと風疹を予防する混合生ワクチンです。1歳から2歳の間にかかる子どもが多いので、1歳になったら早目に受けるようにしましょう(1期)。また、2期(年長児)も忘れずに受けましょう。